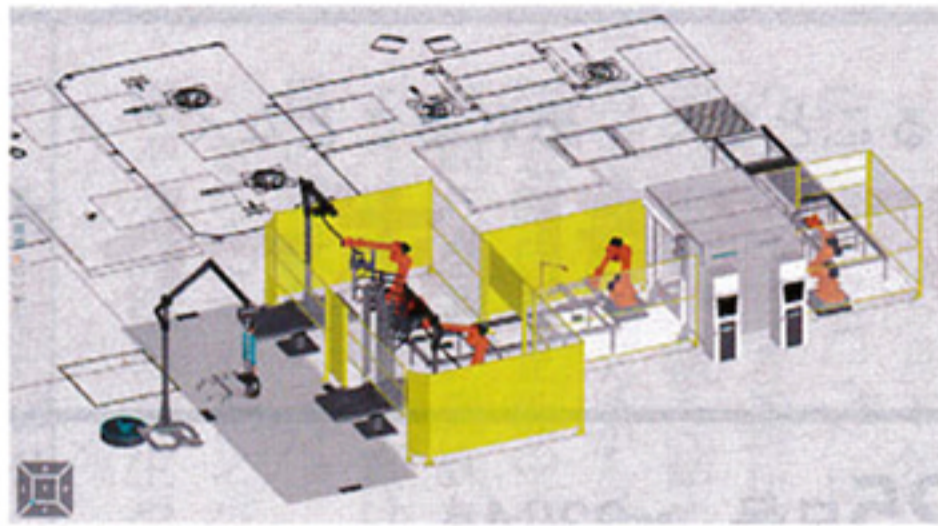


ストリート 仮想空間上に再現、生産性向上へ ディリバー ビス バーチャル工場作成サービス

(株)ディリースピリット(松山市来住町、大野栄一社長)は、デジタルツインを活用し、製造工場内を仮想空間で再現する「バーチャル工場作成サービス」を開始する。

同社は2014年設立。AIやIoTを活用したソリューション開発やウェブ制作などを手掛ける。ロボット事業では、ロボットシステムインテグレータとして、ロボットの設計からシステム構築、導入までを一貫して行う。これまで製造業のスマート工場化に向けたロボットシステムの提案などを進めてきた。

デジタルツインとは、現実世界をコンピュータ上で再現する技術のこと。同サービスではデジタルツインを活用し、工場内の生産ラ



インを仮想空間上でリアルに再現する。製造業者は工場に生産設備を導入する際、設備の導入効果な

どを仮想空間でシミュレーションし、予測が可能。また設備の配置や製造工程の見直しを行うことで生産性向上にもつながるといふ。

新サービスを始めるに伴い、3Dスキャナーや専用のソフトウェアなどを導入。事業再構築補助金の採択を受け活用した。

バーチャル工場の製作費用は約800平方メートルの工場で500〜600万円程度。製作期間は4〜5カ月を想定する。

まずは県内の製造事業所に提案する計画で、ゆくゆくは四国内に広げていきたい考え。将来的には定期的にバーチャル工場のメンテナンスを行うサブスクのサービスも検討している。

「仮想空間上で何度もシミュレーションし、最適な生産ラインを作れる。当社のソフトウェア開発やロボットインテグレータとしてのノウハウを生かしていきたい」(大野社長)とする。AIを使っ

た分析も可能という。3年後をめどに年間1億円の売り上げを目指したい考えだ。

さらに同社は、今回導入した設備を活用し、リバースエンジニアリングサービスも始める。同サービスは既存の製品や部品から3D CADデータを作成。古い製品などで3D CADの図面が残っていない場合などのニーズに応える。費用は1製品あたり15〜30万円を想定する。

▼ジャストネット(株)(松山市)が運営するプロスポーツチーム「WEB BACC A」は、Football 部門強化のため、トライアル選手の募集を開始した。